

# 北海道医師会役員 就任のご挨拶

## 常任理事就任のご挨拶

常任理事

札幌市医師会  
旭山内科クリニック 院長

水谷 匡宏



このたび、札幌市医師会前会長の上埜先生のご推挙により、常任理事に就任し、医業経営・福利厚生を担当部長を拝命いたしました。この機会に私の生い立ちと経歴について簡単に紹介させていただきます。

私は昭和27年に小樽市に生まれました。小学校は明治初期に開校した九十年以上の歴史をもつ古い学校で、毎日教室の窓からは建物の威容さでは学校と遜色のない市立病院が間近に見えました。授業に飽きると病院の石垣のすきまに埋めてある配管パイプからちよろちよろと流れるさび色の廃液やその蒸気音が変に気になり、ますます授業に集中を欠いたのを覚えております。在学中偶然にもその市立病院の院長の娘さんと同級になったとき、担任の女性教師の家庭訪問時の話として、父親の威厳と家族愛を称える場面があり、医家に無縁な私にとって強く印象に残りました。それ以来医師に対するあこがれと尊敬の念が芽生えました。その後中学時代では、母親の言いつけで英語塾に通い始めました。その塾へ行く前に親しい開業医家の友人の自宅に寄っては、彼の父親のりっぱな書斎をみますます医者へのあこがれを強くしました。いま世間では政治家の世襲制が話題になっておりますが、医家においては無関係のような気がします。

その後札幌に転居してからは高校、大学と自宅通いを続け、昭和54年に北大を卒業しました。北大循環器内科に約10年間在籍した後、平成3年に現在のメディカルビル内で内科クリニックを開業しました。開業当初は患者数も少なく将来への不安でいっぱいでした。特に医療制度が変わるたびに襲ってくる苦難は相当なもので、家族の協力と従業員の助けがなければクリアできなかつたのではと今でも感謝しております。

医師会活動としては平成7年に札幌市医師会に入会し、所属の中央区西支部で在宅介護委員、医政委員などを務め、平成19年より山崎支部長のご推薦を受け札幌市医師会理事に就任しました。短い2年間でしたが総務、救急、政策部門を担当し、幅広く勉

強させていただきました。このたび縁があり北海道医師会常任理事に就任したことを大変光栄に存じております。

さて、この約10年間の医療界を振り返りますと、平成13年より始まった小泉内閣の聖域なき構造改革、市場原理主義は医療崩壊を推し進めました。平成19年の日医総研のワーキングペーパーを見ますと、全国の統計では病院のみならず、診療所も3割以上は赤字経営をしいられております。赤字が続くと銀行からの借り入れも厳しいことになり、ますます経営者の首を絞める結果になり、閉院への道に近づきます。さらに昨年の改定以降経営環境の悪化は進行しているものと推測されます。

今後の対策として考えたいのは、医療崩壊の原因となっている平成18年から続いている年間2,200億円の社会保障費の伸びの削減は即刻解消すべきです。また政府の推し進める診療所からの勤務医対策費移行はまったくの言い逃れで、納得できるものではありません。今一度元に戻し、他の新たな財源で勤務医対策をすべきです。

すでに中央では次回の診療報酬改定に向け、外来管理加算の5分間ルールと診療所の再診料の引き下げ問題が焦点にあがっております。決して財政審の提案している再診料の引き下げを容認すべきではありません。これらの点を踏まえて日本医師会のがんばりに期待し、北海道医師会も総力を挙げて後押しいたします。経済不況の嵐が吹き抜ける厳しい世の中ではありますが、景気も必ずや回復基調に向かうはずです。これからもくじけずに前向きに対処して行こうではありませんか。会員諸先生のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



## 常任理事就任にあたって

常任理事

札幌市医師会

やましな内科クリニック 院長

山科 賢児



このたび常任理事に就任した山科です。この文を書いているほんの2カ月前までの私の生活は毎日の診療を行い、帰宅後は妻と夕食をとりながらビール、ワインを飲み、趣味の習い事の練習をし、就寝前には愛犬と散歩という日課でした。もちろん北海道医師会のことなど全く頭になく、さて今年はいあと何回スキーに、今年こそはゴルフをもう少し多くなどと安直な生活を描く日々を過ごしていました。

また毎日配信されてくる道医からのメール、日医白クマ通信のタイトルを「誰がこれらの記事を読むのかなあ」と眺めながら「全て削除」とクリックするのも日課の一つでした。それがここで常任理事就任の挨拶文を書かさせていただくなんて全く驚きです。ましてまだ理解不足の私が情報広報部長名でメールを毎日全道の医師会員に配信するようになるなんて信じられません。人生ってわからないものです。

常任理事就任の噂が流れると多くの方々から「理事になると忙しい、大変だ」「会議が多く診療を休まなくてはならない」「自分の時間がなくなるよ」と忠告を受けました。そう言われてしまうと「止めればよかった、とても大変で荷が重過ぎる、引き受けたことが間違いではなかったか」と悩んだものです。ですがまた一方、「優秀な人たちと出会えるよ、新しい世界が開けるよ」と勧めてくださる方々もいらっしゃいました。

日頃感じることですが、素晴らしい才能、能力のある方々と知り合える機会は人生の中でなかなかあるものではありません。先日の常任理事会では鋭い質問と的確な意見が次々に飛び出し、とても刺激的でした。皆様と一緒に仕事させていただくのは私にとって名誉なことと感じます。このような新しい世界を経験できる機会を与えていただいた長瀬会長、上埜前札幌市医師会会長、山本前常任理事に本当に感謝申し上げます。

最近の企業の中間管理職は悩みが多く、同時にその存在意義が問われていると言われていています。北海道医師会を企業に例えますとその中間管理職ではないでしょうか。郡市医師会と日本医師会の中間に漂う微妙な立場の存在に見えます。従来のだ医の役割は、日医からの情報を迅速・正確に郡市医師会に伝達し、郡市医師会の要望、意見を日医にできるだけ

反映させることだったでしょう。しかし、社会の変化に伴い情報の劇的民主化が始まり、情報はインターネットなどを通じて医師会会員一人一人にも同時に伝えられるようになりました。今や情報を中途半端に加工したり伝達したりすることで存在価値を示すことはできません。郡市医師会から問われる前に迅速に次の行動、意見を打ち出すのが道医の役割となったのではないのでしょうか。しかし少人数の理事と事務方だけでは非常にハードルの高い仕事でもあります。立場、年齢、職種を越えた協力、バックアップがなければ機能しないのではと危惧します。企業はピラミッド型の構造を一步一步積み上げる組織ではなく、一人のリーダーと複数の部下が成果を上げていく組織へと変化しつつあるようです。医師会組織も縦ではなく横のつながりを重視した構造が必要かもしれません。

最後に、北海道医師会員の皆様にはご迷惑をかける覚悟ですが、なにぶん「何も知らない、わからない、全てこれから」というのが私の現実ですし、不得意なものはやはりできません。しかし「北海道医師会の一員」「現場の医師」の目線を忘れず精一杯会務を行なう決意です。幸いにも事務の方々も人材豊富で既に随分助けていただき感謝しています。何卒よろしくお願いいたします。



## 理事に就任して

### 理事

札幌市医師会  
札幌月寒病院 院長

山光 進



第131回北海道医師会定時代議員会において理事に選出され、大変光栄に思うとともに、少なからず緊張しております。また、第106回札幌市医師会定時代議員会で札幌市医師会会長に選出いただきました。現在の厳しい医療環境の中でその責任の重大さを痛感しておりますが、この2年間、北海道医師会、札幌市医師会の会員の付託に応え得るよう誠心誠意努力して参る所存でございますので、ご忠言ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

小泉・竹中ラインで行われた「聖域なき構造改革」に端を発した医療制度改革と医療費の伸び率抑制により、日本の医療は崩壊の過程にあります。また、アメリカに生まれたグローバル資本主義の同時期の導入とその失敗は、日本人の歴史文化的なものとは社会習慣的なもの（安心、安全、平等、信頼、協調、思いやり、連帯感など）を破壊し、人間を個人化して孤立化させてしまいました。

現在、自己負担増による受診抑制問題をはじめ、社会保障費の機械的な削減問題、レセプトオンライン化の問題、外来加算5分間要件の問題、死因究明制度と異状死届け出の問題、医師不足と偏在の問題など、多くの課題が山積しておりますが、この厳しい医療環境であるからこそ、これらの問題に対し「会員の幸せと利益を第一」として対応して参りたいと考えております。特に受診抑制については、札幌市医師会が昨年8月に実施した「外来受診者数影響調査結果」からも非常に深刻な状況であることが推測され、われわれに厳しい医業経営を強いる大きな問題であります。また、国民にとっても、生活不安や雇用不安の環境下において、大変厳しい自己負担額となっておりますので、是非、外来医療費の窓口負担の軽減を最優先に取り組むべきと考えております。

これらの問題につきましては、札幌市医師会をはじめ中央ブロック、ならびに各ブロックの先生方のご意見を十分お聞きし、ともに検討し、長瀬北海道医師会長を中心に「団結と融和」を、そして関係諸機関に対しては強い医師会を目指して参りたいと思っておりますので、会員諸先生方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、札幌には北海道の人口の約三分の一が集中しています。札幌医師会も3,600名を超え、郡市医師会では日本最大の医師会になりました。また、北

海道医師会における札幌市医師会の会員数の割合は約37%、医療機関数も約39%（うち、病院数が35%）を占めております。今後、政令指定都市としての札幌市医師会が、現在、道央圏をはじめ各医療圏がかかえております医師不足と偏在の問題、そして地域医療の確保などについて、期待されるものは何か、そして貢献できるものは何か、各ブロックの先生方と意見交換を行ないながら検討し行動して参りたいと考えておりますので、ご指導ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。私たちは、医師が「喜びと誇りと満足感」をもって医療を行うことができる環境を整備すること、このことに最大の努力を傾注してまいります。

## 役員就任ご挨拶

### 理事

江別医師会  
江別病院 院長

品田 佳秀



このたび、北海道医師会の理事に就任させていただきました、江別医師会の品田佳秀でございます。長瀬会長はじめ、皆様方のご指導いただきながら、任期を全うさせていただきたく存じます。

道医師会の、大変熱心な活動状況をどのように郡市医師会にお知らせするか、また郡市医師会の皆様のご意見をどのように道医師会にお伝えするか考えております。

どうぞよろしくご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。





## 理事就任ご挨拶

理事

函館市医師会  
医療法人雄心会 理事長

伊藤 丈雄



この度、道南ブロックを代表して、前函館市医師会会長山英昭先生の後を継いで北海道医師会理事に就任することになりました。重要な役職でその責任の重さに身の引き締まる思いで一杯です。

私は昭和47年札幌医科大学卒19期で同大脳神経外科同門です。10年間市立函館病院勤務の後、昭和62年函館市石川町で脳神経外科を主とし、循環器内科・整形外科等を併設した病院を開業し22年経過しました。道医師会は平成15年4月より3期6年間代議員を務めさせていただき、この間代議員会副議長・議長を各1期務めさせていただきました。上手とは言い難い議事運営で皆様に大変ご迷惑をおかけし深くお詫び申し上げます。この間前飯塚会長をはじめ現長瀬会長ならびに道医理事役員の皆様がとてつもない業務量で毎日忙しくされているのを拝見し、全道医師会員のために努力くださり、大変なことと思いつつ改めて敬意を表する次第です。今後は私も理事として任期中でき得る限り、職務を全うすべく努力する所存であります。道医師会中枢機関である理事会の一員になることの責任の重さを新ためて痛感しております。

医療をとりまく現状は厳しく、レセプトオンライン化・医療事故調査委員会・後期高齢者医療制度問題・地域医療崩壊等々挙げたらきりが無い程の難問ばかりです。加えて100年に1度の世界経済恐慌と言われる世界経済の悪化、これに伴い国内雇用不安増大に患者の受診抑制等がおこり地域住民の命の安全と健康保持に関し悪しき状態であると認識しております。当道南ブロックにおいても、函館を中心とした二次救急医療崩壊をきたす寸前でしたが勤務医・開業医会員の努力と協力によってなんとか新函館方式とも言うべき制度の再構築を図ることができました。今日、新型インフルエンザの流行の恐れがあり各医師会に要請がありそれぞれご苦勞なさっておられることと思いますが、政府は指示を押し付けるがそれを実行する医療側への配慮（経費負担・風評対策など）はほとんどなされておられません。小泉内閣以来の医療費抑制政策で各医療機関はまさに瀕死の重体であります。年間2,200億円の社会保障費の削減にしても然りで、今回の不況対策にばらまきと思われる費用もあり、何千億何兆円と財政出動が繰り返されているのを見る度に“なぜ福祉・医療に恒久

的改善の目を向けてくれないのか！”と思わずにいられません。函館市・渡島・桧山・北部桧山の四医師会より構成される道南ブロックは定期的なブロック会議を開催し、またいろいろな場面で交流を図り意見交換をしたり、実行すべき行動プランを検討しており地域医療を守るべく努力を重ねております。しかしこれら述べました諸問題の解決は郡市医師会レベルのみでは到底解決できません。当然道医・日医との連携なくしては無理と考えます。

国民が平等に高い水準の医療を受けられるという世界に類を見ない国民皆保険制度を堅持し、われわれ医師はいつ如何なる時も地域住民の生命を守り健康を保持するという医の理念を放棄することはできません。これらを守る意味でも北海道医師会の役割は今後も重大さを増して行くと考え、小生もその責任を全うすべく努力して行く所存でございます。

長瀬会長をはじめ、各役員の皆様、諸先輩理事の先生がた、および道医師会会員の皆様のご指導を仰ぎ、しっかり勉強させていただき大任を果たしたく思っておりますのでご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。理事就任のご挨拶といたします。



## 理事就任ご挨拶

理事

小樽市医師会  
つだ小児科 院長

津田 哲哉



このたび、平成21年3月14日、第131回北海道医師会定時代議員会において後志ブロックのご推挙をいただき、城守前理事の後任として理事に選出されました。

これまで、平成3年より小樽市医師会理事として、学校保健部3期6年間、総務部4期8年間、副会長2期4年間、奥芝年雄先生、高橋昭三先生、城守先生の3代会長のもと御指導いただいております。3前会長とも、小樽市医師会に名を残す立派な人格者であり、小樽市医師会、後志ブロック郡市医師会をリードされておりました。また、北海道医師会理事会におきましても、大きな業績を残し立派に務められてきました。その後任として私には大変な重荷ではありますが、小樽市医師会の名を汚さないよう重責を果たしたいと思っております。

私の北海道医師会活動は、各種の委員会に後志地区・小樽市医師会委員として関わっておりました。代議員会では、代表質問、個人質問は必ず提出する歴代小樽市医師会会長の強い方針でしたので、過去に何回か代表質問をいたしました。この間、比較的自由的な立場で発言させていただきました。

しかし、これからは地区代表としての認識を高め責任ある言動に配慮しなければならないと心を引き締めております。

昨年10月にサブプライムローンの破綻に端を発した世界的経済不況の影響で、今年に入って日本経済の不況は月を追うごと顕著になっております。しかし、医療情勢の悪化は、それ以前より始まっており、崩壊状態であると言わざるをえません。この間、政府は種々の対策案を出してはきましたが、十分な効果は上がっておりません。

今後、増加する医療費全体をどう見るのか大きな問題です。社会保障費の毎年2,200億円機械的削減を直ちに止めるべきで、今年度多少の増額はしても、2,200億円削減という文言がある限り、医療政策の基本方針は変わらず、短期間の対症療法的政策は、まやかしかくしかありません。全国的に医療崩壊は地方の隅々まで進み、今や、地方の末端ほど崩壊度は激しく、地方の住民はこの医療状況に不安を抱き困惑していることと思います。今、後志地区において小樽市でも種々の医療問題を抱えております。後志ブロック医師大会、後志ブロック医師会長連絡協議会

などで、医師不足、看護師不足、救急医療、介護・医療問題など地域自体の問題度がますます深くなり、解決が困難になっておりますことを話題にとりあげられます。地元の医療問題に全力を注ぎ、地域医療を守っていくことが全道的、全国的な問題解決に繋がる第一歩と思っております。長瀬清会長は、平成21年度の基本的活動方針の中に地域医療を担う先生方との関わりを強めることを敢えて上げております。理事に就任し全道の各ブロックの代表理事とも直接、種々の問題の御意見を伺える良い機会ですし、各医師会間の、情報交換や連携を活発にし、交流を深めたいと思っております。

小樽市医師会においても、市立病院新築、救急医療、看護師学校、公益法人など各医師会と同様の問題を抱えております。北海道医師会をはじめとして、皆様の御指導、御鞭撻、御協力をいただきながら任期を務めたいと思っております。よろしく願いいたします。



## 理事就任ご挨拶

理事  
帯広市医師会  
堀整形外科 院長  
堀 修司



このたび、平成21年3月14日の北海道医師会定時代議員会において、道東ブロックの吉田征夫先生の後任として理事に選出され、同時に日本医師会予備代議員にも就くことになりました。

私は平成7年より帯広市医師会理事を10年、平成17年より副会長を4年務めました。この間代議員として北海道医師会の会議に出席して、こちら側から役員、理事席を見ていましたが、その博識と熱心さに敬服しておりましたところ、この4月に帯広市医師会長に選出されたことで向こう側に座ることになり、あらためて責任の重大さを感じています。

帯広市医師会にも准看護学校の円滑な運営の問題、二次病院に集中する一次の患者さんをどうするかを含めた救急の問題、多様化する検診業務に携わる医師の高齢化、市と町村の医療連携など問題が山積しています。このような問題は一地方の問題に留まらず全道的な要素も含んでおり、道医師会の理事に選出されたことで、これらの問題の研鑽の機会を与えられたものと思っています。

医師会活動の中で最も懸念していることが、医師会員の医師会に対する関心の希薄さです。厳しい医療経営のなかで時間的、精神的な余裕が持てないのかもしれませんが、医療を取り巻く環境が大きく変化している今こそ日医、道医の情報を数多く発信して関心を喚起したいと思っています。

会長をはじめ常任理事の方々のご指導とご協力のもとに努力していく所存ですので何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## 理事新任のご挨拶

理事  
釧路市医師会  
杉元内科医院 院長  
杉元 紘一



本年4月より、道東ブロックから理事に就任いたしました杉元です。

私は東京市牛込区若松町で生まれ、兵庫県尼崎市で終戦を迎えました。かんかん照りの日でしたが、ズボン履かされてラジオの前に座らせられたのを記憶しています。尼崎市の北部の小・中学校と高校を卒業し、昭和35年に北海道大学に入学しました。折しも安保闘争真っ只中で、異常な大学生活の始まりでした。巡り合せとはいえ、その後もインターン闘争、国家試験ボイコット、医局闘争へと「闘争」が続いていったのでした。昭和52年に開業しましたが、いわゆる「医師優遇税制」が翌年から見直され、ほとんど「優遇」の恩恵に与れず。診療においては、「プロフェッショナルフリーダム」は今や死語と化し、添付文書通りでないで減点される。「医療費亡国論」がいまだに根強くはびこっているようで、果てしなく医療がやりづらくなっていきそうです。

釧路市医師会においては、理事を3期6年、副会長を4期8年務め、主に総務・財務・福利厚生・広報等を担当していました。最近では、医師会病院の移譲に関して、会長代行を命じられ、諸問題の解決と移譲の完結に向けて、鋭意努力して参りました。

趣味：ゴルフは、昭和45年倶知安がスタートで現在H13。囲碁は、日本棋院釧路支部の支部長で5段格（実力は別）。旅行は、行きたい所がまだまだ沢山あるが行けないので趣味とは言えないか。カラオケは、後輩が100点を出した歌を直に聞いて除外することにした。

北海道医師会の活動においては、道東ブロックの代議員・議事運営委員および北海道ドクターズゴルフ協議会役員等を務めさせていただきました。このたびは道東ブロックから理事に選出されたのであり、道東特に医療過疎地としての釧根地域の医療状況や問題を、道医への確に上げていくことが、重要な役割の一つだと思われます。長瀬会長をはじめ役員の方々の諸先生方のご指導を賜りながら、任務を遂行して参りたいと思います。地元医師会では、向う三軒両隣とのお付き合いをはじめ、町内会や地域の活動に医師も直接参加して、交流や意見交換を図る努力をされるように、会員の皆さんにお願いしたいと思っています。トップとしてのロビー活動とともに、医師会の主張が国民に理解され支持されるため



には、ベースの活動も重視されるべきだと考えています。今後とも会員の皆様のご鞭撻とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 監事就任の挨拶

### 監事

小樽市医師会  
明治眼科医院 院長

大口 正樹



この度、後志ブロックより北海道医師会の監事に推薦されました小樽市医師会の大口正樹です。

略歴を紹介しますと、昭和19年に小樽で生まれ、昭和44年に岩手医大を卒業。その後北大眼科に昭和57年3月まで在籍し、杉浦教授、松田教授の下で研鑽しておりました。昭和57年4月より、実家である小樽の明治眼科に勤務。昭和59年6月に現在地に新築移転しました。偶然ですが、移転したところは明治眼科の発祥の地でした。当院は明治37年に溝渕重氏が開設し、二代目大口道忠、三代目大口正道と受け継がれ小生で四代目となります。

医師会活動では平成6年4月より平成17年小樽市医師会の理事を務め、医業経営部を1年、看護教育部を6年、広報部を4年担当しておりました。また、平成7年1月より現在に至るまで国保の審査委員をしております。

昨年の4月から長男と二人での診療体制になりましたので、一人のときに比べ余裕ができました。このへんが監事に推薦された理由かもしれません。

しかし、医院の経営は年々厳しくなっております。収入の減少や人材の確保、各種委員会の設置、レセプトオンライン化など出費がかさみます。

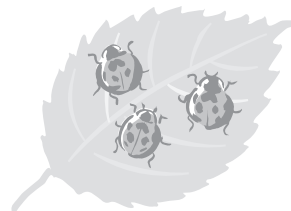
小泉政権の骨太の方針により、医療費を毎年2,200億円減らすと決まってから、世界に冠たる日本の医療がどんどん悪化し、医療崩壊という恐ろしい言葉が頻回に登場しております。このままの状態が続けば本当に日本の医療が崩壊してしまうということに政府与党も気がつき、方針は変えないものの、医療費の減額は凍結されてきているようです。医療の現場で日夜頑張っている医師の声が、日本医師会や各地の医師会の活動により、政府与党に徐々に認められてきた結果であります。

ところで、監事に就任しましたがその役柄につきまして、理解ができていないところがありますので、辞書で“監事”を調べてみました。日本語大辞典によりますと「法律で、法人の財産および理事の業務を監査する機関、またはその役の人。英語ではsupervisor」とありました。

今まで数回会議に出席しましたが、北海道医師会の業務は地方都市の医師会とは規模もレベルもまったく違うということ、強く感じました。

三役はじめ常任理事、理事の方々と協力して、日本の医療が崩壊へむかわないようにsupervisorとして、微力ながら、頑張る所存であります。幸い、監事には中村先生、水元先生と先輩の方がおられますので、両先生のご指導の下で任務を全うしたいと思いますっております。

北海道医師会の会員の先生方におかれましても、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



## 代議員会議長に就任して

議長  
帯広市医師会  
協立病院 顧問

塩野 恒夫



このたび、平成21年3月14日に開かれた第131回北海道医師会定時代議員会においてご承認いただき議長に就任しました。議長就任にあたりご挨拶申し上げます。

100年に一度といわれる日本の不況とともに医療界にも大きな波が押し寄せています。医師の不足・偏在、特に産科など診療科の医師不足・偏在がさらに外科・内科などにも拡大波及する気配をみせております。また勤務医の過酷な労働環境、崩壊しかけている地域医療、医療過疎、療養病床の再編、医療費適正化などとともに医療格差、新医師臨床研修制度による医師の偏在などなど医療改革の名の下に進められ、患者・医療従事者に多くの痛みと負担を求めています。経済界は勝ち組負け組二極端になりつつあり、格差をつけることばかりで、いわゆる中流より下流に近づいています。これが新自由主義という言葉で括られてしまっているのでしょうか。そのほか医療界の中にも問題点は多々あります。この納得できない、もどかしい状況を打破し改めなければならないし、またわれわれに何が求められているのか。このような時にこそ、多くの会員・代議員からの発言・提言が期待されていると思います。各郡市医師会を代表する代議員と道医師会役員との議論の場のなかで医療界の山積みになっている問題点、各郡市医師会が抱えている問題点などを、議論の上、道医・日医へ意見・提言により、良い方向性が出ることに努めたいと思います。

伊藤前代議員会議長の下での経験をふまえて、本間副議長の協力をえて、多くの会員の意見を代議員会の中でいかに活発な議論をし、活気のある、しかもルールを外れず、粛々と代議員会が行われるように代議員会運営を全力で行いたいと考えております。2年間の任期を全うすべく、その重責を果たすとともに、道医師会会員の皆様のご指導、ご鞭撻をせつにお願いしまして代議員会議長就任のご挨拶いたします。

## 代議員会副議長を 仰せつかって

副議長  
函館市医師会  
本間眼科医院 院長

本間 哲



故山英昭会長の突然の会長辞退により伊藤丈雄新会長体制となり、それに伴いいわゆる「芋づる式」に副会長職に引き上げられ、頭の整理もできないでいたのが丁度昨年今頃でした。その後少しずつ職務に慣れ、年も明けて3月の定時総会へ向けて準備にかかろうとしている時、この話が舞い込んできたのです。

伊藤会長が道医代議員会議長をお務めで、故山会長の代わりに竹田公一筆頭副会長が道医理事に就任されておりましたので、当然ながら新年度は伊藤会長が理事に、そして竹田筆頭副会長が塩野議長のもと副議長に推薦されるはずでありました。ところが理事から副議長には立候補できないことや、函館市医師会と北海道医師会の任期のずれも微妙に影響して結局小生が出ることになったわけでありました。若輩ではありますが、ご推挙いただいた以上は誠心誠意頑張って職務を全うしたいと思います。

さて議長の仕事は『代議員会が公平、公正かつ円滑に運営されるよう努め、議場の秩序を保つ』とあり、副議長はこれを補佐するわけですから責任重大であります。そして当代議員会における各ブロックからの代表質問ならびに個人質問の議事進行は副議長が取り仕切ることになっており、私が一番気にかけることはその時間厳守であります。特に遠隔地からお集まりの先生におかれましては帰路の時間を考慮しなければならず、できる限りタイムテーブルにのっとった議事進行を心掛けねばなりません。代表質問や個人質問の内容は前日の議事運営委員会でおおよそ整理されますので、関連質問が多く出ない限り時間超過はありません。私の経験から思慮するに、理事者側の答弁が長くなる場合に時間が押してしまうように感じるのです。活発なご議論を交わすことは大いに結構と思えますし、理事者答弁が当然長くなることも承知しておりますが、やはり『公平、公正かつ円滑な運営』のためにはご答弁内容の整理と時間短縮にご協力のほどお願いする次第であります。

これから2年間塩野議長を補佐し、精一杯副議長職を遂行する所存でありますので、先輩諸兄の先生におかれましては宜しくご協力のほどお願い申し上げます。北海道医師会の活動が多くの方から前向きに評価され、また大いに期待されるよう念じて私の就任の挨拶とさせていただきます。